

(大正五年四月六日第三種郵便物認可)昭和十二年十一月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究

第二十二卷 第二十二册

第二六六一號

昭和二十二年十二月一日發行



種の論理の意味を明にす (承前)

..... 文學博士 田邊 元

アリストテレスに於ける認識論的思想の

發展 (承前) 商學士 藤井義夫

「アリストテレスの認識論」研究への一寄與

相對性理論をめぐる認識論的諸問題 (承前)

..... 文學士 近藤洋逸

京都市立大學文學部

京都哲學會

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス
ルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納
スベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士			
天野	植田	白井	小島	木村	九鬼	田邊	中西	西谷	野上	羽溪	服部	久松	本田	山内
貞祐	壽藏	二尙	祐馬	素衛	周造	正元	正一	啓治	俊夫	了諦	英次郎	真一	義英	得立

會 告

印刷其他諸經費騰貴の爲、來年度より本會々費を左記の
通改正仕候間、此段御諒承被下度候

會 費 一 年 五 圓 也

(但哲學研究定價一部四拾五錢)

京 都 哲 學 會

會 員 各 位

前 號 目 次

種の論理の意味を明にす (承前).....	文學博士 田邊 元
アリストテレスに於ける <i>ousia</i> としての <i>psyche</i>	文學士 高橋 亨
人格の問題.....	文學士 横山 巖
——ベルグソンに於ける二つの自我に就て——	
相對性理論をめぐる認識論的諸問題.....	文學士 近藤 洋逸

告 會

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	數	定 價	郵 稅
一冊	冊	金 四 拾 錢	壹 錢
六冊	(前金)	金 貳 圓 四 拾 錢	不 申 受
十二冊	(前金)	金 四 圓 八 拾 錢	不 申 受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十二年七月廿五日印刷納本
昭和十二年十二月一日發行
第二百六十一號 第二十二卷
第十二册

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

不許複製
禁轉載

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 京都三九三一番
大阪三九三一番
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 内外出版印刷株式會社

(東京) 寶文館 東隆館 東京堂 東海堂

賣捌所 (大阪) 寶文館 北隆館 上田屋 參文社

(神戸) 寶文館 盛文館 川瀨書店

(京都) 寶文館 大寶文社 大盛社

士博學文授教大帝都京

著元邊田

哲學と科學との間

刊新

四六判二五〇頁
クローズ裝上製函入
定價一圓五十錢
送料書留二十一錢

博士は我國現時の哲學界に於て謹嚴なる人格と深奥なる思索とをもつて能く一世を指導し人心を訓化する學識者として、普く知られてゐる。昨秋博士が「科學政策の矛盾」を發表して我國の現社會狀勢に對する熾烈な熱情を吐露せらるゝや、多くの知識人が衷心から感激し、眞に國家の前途を思ふの念に燃えたことは我々の記憶に新たな處である。博士はその序文に於て、「愛國の熱情は科學的精神を伴ふことを要する」と云ひ、「愛國心の昂揚に次いで、科學的精神の喚起の急務なること、今日の如きは少ないであらう」と説かれてゐる。本書に收録された數篇の論文は、博士が最近二年間に執筆されたもので、何れも科學と哲學との根本に觸れ、しかも時勢に最も樞要な原理的認識である。博士と共に、「此非常の時に際して、國家の合理的なる進展に、微小なりとも貢獻したい」と希ふ人々は、先づ本書に依て博士の言を聞くべきである。

科學概論

菊列上製三七〇頁
定價二・八〇 送料二二

數理哲學研究

菊列上製五四四頁
定價三・五〇 送料三三

京東替振
〇四二六二

店書波岩 田神京東
橋ッ 一